

祝祭空間として転用される都市空間の可能性に関する研究

～徳島県徳島市新町川周辺を例として～

Research on the potential of urban space diverted to festival space

～For an example about the circumference of the Tokushima-shi, Tokushima Shinmachi river～

11123003 加藤 悠

主査 篠原 聡子 教授

副査 鈴木 賢次 教授

副査 片山 伸也 准教授

祭礼 公共空間 祝祭空間 市民参加 転用性

Festival, Public space, Festival space, Citizen participation, Temporary

第一章 はじめに

1-1. 研究の背景と目的

今、都市における課題は多様化、複雑化している。20世紀末から都市再生という言葉は頻繁に聞かれるようになり、2002年の都市再生特別措置法の制定によって本格的に進められる事になった。容積率が緩和され都市の機能が高まり、コンパクトシティを推進する都市が増えた。しかし、成功例ばかりではなく、市街地が衰退して行く都市は未だ多く見られる。市民は都市再生の効果を実感できずにいる。市民と都市と双方向のコミュニケーションが取れ、身の回りの都市空間がより魅力的に感じ取れるようになり、豊かな都市生活を送る事が市民にとっては最も望ましいのではないかと。

『都市は市民の為の舞台となる。』

道や町の中のオープンスペースなどの公共空間は、祭礼時、様々な舞台となる。特に阿波踊りのような巡回型の祭礼では、そのような空間の使われ方が街の中の至る所で見られる。にぎやかな祝祭空間は市民に分かりやすい都市の印象を与え、自分の街に対する可能性を実感しやすい。その街の景観となり、市民の原風景となる。祝祭空間を意識した空間計画が行われる事によって、祭礼が観光資源としての効果が高まるだけでなく、市民にとってより魅力的になり、市民の町への愛着心を高める等、多様な効果が得られると考えられる。本研究は、日常でも非

日常でも、より公共空間が利用されるためにはどのような都市空間作りが効果的かという指針を得て、今後の住生活の質を高めることを目的としている。

1-2. 用語の定義

観察の対象は、祭礼時のお祭りの雰囲気の広がりが見れた街空間、道路やオープンスペース、広場、自然などの景観だけでなく、そこで活動する人々の動きも含める。これら全てを【都市祝祭空間】とする。(省略して【祝祭空間】とも呼ぶ。)

本論文では、実際に都市の祝祭空間を体験しながら現地調査を行っている。本論文では、日常生活の中で、「お祭り」や「イベント」と呼ばれている物を広く【祭礼】と定義し、研究対象として扱っている。

特に祭礼が行われる時には、日常的な空間が、祝祭空間へと変容される様子が数多く見受けられる。着目する徳島市の代表的な祭礼である阿波踊りのように、街中を人々が巡回するタイプの祭礼では、都市の中の様々な場所で、様々なシーンが見られる事が予想される。このような祭礼を【巡回型祭礼】とし、また、このように人の動く様子が顕著に見られる公共空間は【巡回性】の高い都市空間とする。

さらに、【転用性】とは、主として非日常時と日常時において都市空間の使われ方が多様に変化するポテンシャルを持つ事を言い、阿波踊り等のような祭礼時だけでなく、市場等のような日常生活の中の小さなイベントに使用される場合も全てその変化に含めている。特に都市空間が演者(見られる人)と観客

(見る人)のスペースに構成される事を【舞台性】と呼ぶ。

1-3. 研究プロセスと視点

「転用性」の高い公共空間の実例を文献から選出し、必要要因を抽出する。さらに、祭礼時の空間利用実態調査を行い、祝祭空間を自ら体験し、都市空間の使われ方を考察し、分類する。さらに、「巡回性」の高い徳島県徳島市新町川付近に焦点を当て、ヒアリングにより行政とNPO 団体それぞれの意識調査を行い、都市空間の現状と問題をハード/ソフト両面から考察する。以上から徳島市の都市空間利用の可能性と課題を考察する。(図1)

〈研究のフロー〉

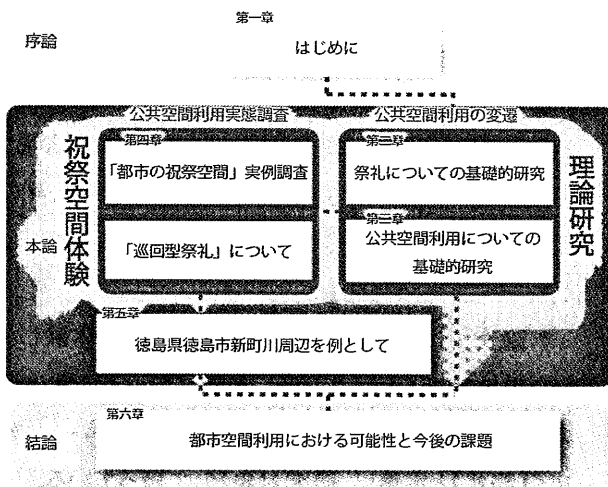


図1

1-4. 既往研究と本論の位置付け

Cinii から本文を閲覧できる論文を対象に、既往論文調査を行った。

祭礼に関する研究は、民俗学視点のものが多数存在すると考えられるため、本研究では都市論視点の祭礼研究を中心に検索するために、「都市」、「祭礼」、「街路」、「舞台」、「空間」、「祝祭空間」、「構造」、「市民参加」、「シビックプライド」「転用」等をキーワードとした。研究分野は図2のように都市論、建築計画、民俗学/人類学、教育学視点を中心に折り重なっている。(図2)

祭礼に関する研究は、柳田国男を代表とする民俗学、文化人類学、社会学的視点による論考が非常

に多く見られる。その多くは祭礼の起源を探る歴史解釈的なもの、祭礼地域住民のコミュニティ論、また、観光効果に関する論考である。本研究で着目する徳島市阿波踊りについての論文は既に存在するが、起源とその広がりに関する論考が多数で、徳島市の祭礼時の空間利用が都市計画へ与える影響とその課題に関する論考はまだ見られない。

都市計画、建築分野における祭礼研究は大きく次のように2つに分類できる。

- ① 祭礼時に可視化される地域コミュニティと都市構造との関係性を述べたもの。
祭礼時の地域の地蔵等を拠点とした神輿等の巡回経路が、どのように周辺コミュニティに影響してきたのかその起源と共に論考したものである。
- ② 祭礼時の建築ファサード、代表的な町家の利用の実態調査から空間演出の特徴を考察したもの。

本研究では、祭礼時、日常時にそれぞれ建築や都市空間が、一時的に、露店、演者、観客によっていかに転用されるポテンシャルがあるかに関する考察が中心となっている。建築計画の視点から、空間と祭礼と人が相互作用し合う景観デザインを考察し、今後の市民参加型まちづくりへの課題をハード/ソフト両面から論考している点に、本論文の独自性、革新性が示される。

〈研究分野の重なり〉

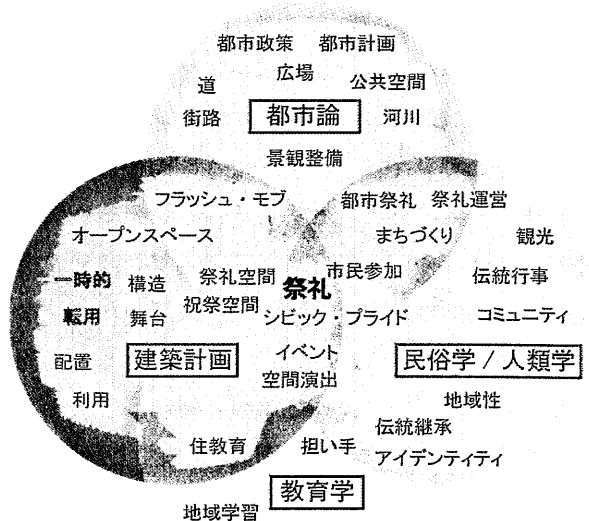


図2

第二章 祭礼についての基礎的研究

現代の都市で開かれる祭礼は多様である。都市と祭礼の関わり、変遷について、文献、祭礼の目視/ヒアリング調査から読み解き考察する。

2-1. 現代の都市と「祭礼」について

民俗学者の柳田國男は、祭礼を「祭り」と「祭礼」に区分した。柳田は、祭事を営む人と、それを司る神官等のみによって行われる宗教的行為を「祭り」と呼び、それに直接関わりのない見物人が加わったものを「祭礼」と呼んだ。阿波踊りの歌詞『踊る阿呆に見る阿呆』からも分かるように、「祭礼」とは「見られる祭り」であり、華やかなものである。現代の祭礼には、神社の御祭神を中心とする宗教的、伝統的行為である本来の「祭り」と、戦後、神との関係が薄れ、地域振興の為に新しく作られた大衆的なイベントとしての「神なき祭り＝祭礼」がある。しかし本研究ではこれらを区別せず総じて【祭礼】と呼ぶ。

(図3)

2-2. シビックプライドと祭礼

祭礼の日には、都市は、舞台のようになる。祭礼を演じる者とそれを見て楽しむ者とがハレの時間と空間を共有する。また、祭礼は、ケ(日常)の時には都市の中の何の変哲もない場所、寂れた商店街等に賑わいをもたらし、活力を回復させる力がある。人々は見慣れた風景に、非日常の幻を共に見、そこに居合わせた人々と共に一体感を感じる。これが、祭礼が持つ不思議な力であり、シビック・プライド(市民が町に対して持つ前向きな思い)を呼び起こすものであると考えられる。

さらに祭礼は、人々をも変身させ

る。祭礼に参加する人たちは、日常ではそれぞれの職業に就いているが、祭礼の日には職業とは関係なく、それぞれが役割を受け持ち協力する。神輿を担ぐ人たちは、揃いの紋入りの半纏を着て、酒を飲み交わし、威勢が良くなる。太鼓や鐘を叩き鳴らす人もいれば、食事の準備をする人もいる。また、祭礼の参加者は、地元に住む人たちだけではなく、祭礼の行われる地域の会社や事務所に勤務する人々も加わることがある。また、裏方として祭り組合や、警察、消防関係者も安全確保のために当日、行政と協力体制を組んで働く。例えば、祇園祭、西条祭り、阿波踊りのような盛大な祭礼では、鉾や山を建てる大工方、飾り付けをする手伝い方、車を扱う車方、楽器を鳴らす囃子方、夕方からの提灯を準備する人、山車(戦後の日本の祭礼の変遷)

年代	時流	祭礼例
1945年(S20)	戦争で中断した祭礼の復興期。	昭和21年に阿波踊りが早くも復活し、昭和22年には京都の祇園祭、長崎くんち、相馬野馬追い、仙台七夕まつり、昭和24年には大阪の天神祭、昭和30年には青森のねぶた祭、京都の時代祭、昭和27年には東京の神田祭、山王祭などが復活。
1955年(S30)	高度経済成長期	※「見られる祭礼」化・・・京都祇園祭では、山と鉾の巡行路をそれまでの狭い通りから大通りに変えたり、有料の観覧席を設けたり、7日の間隔を置いて行われた2つの行列を一北化するなどして観光客の便宜を図った。
	1970年(S45)	大坂万国博覧会 以降、観光客を重視した祭礼の運営が見られる。※「見られる祭礼」化の度合いがより強まる。
1973年(S48)	第一次石油ショック	昭和43年の東京の大観音まつり、昭和46年の神戸まつり、昭和47年の東京の高島平まつりなど。
1973年(S48)	高度経済成長終了	元気を取り戻した伝統的な祭礼の例としては東京の神田祭や三社祭が挙げられる。
	1979年(S54)	第二次石油ショック
1987年(S62)	第四次全国総合開発計画(四全総)制定。	※四全総・・・多極分散型国土の形成を目標とし、そのために「個性豊かな地域づくりの推進」の必要があるとし、手段の一つとしてイベントの活用を具体的な施策として掲げた。多くの市町村がイベントによる地域活性化に取り組みようになった。
1989年(H1)	祭礼の再興期。	
1992年(H4)	全国で39市が市政100年を迎え、これを記念した地方博が相次いで開催された。	
至現在	「地域伝統芸能等を活用した行事の実施による観光及び特定地域商工業の振興に関する法律」制定。	祭礼やイベントを後押しした。こうした中で、多くの祭礼やイベントが作り出され、現在に至る。

図3

やだんじり衆の先回りをしてご飯や酒を準備する人など多くの人が従事する。行政は広報面の企画をしたり、当日使用する場所の確保を行ったりする。また、見物する人々もハレの時間と空間の中で晴れ晴れとした陽気な気持ちになる。町の風景と祝祭空間が相乗効果となり、人々が街の風景の一部となるのである。

〈公共空間利用例〉

公共空間例	空間説明	空間用途	性質の有無
	<p>〔バセ・ロワイヤル〕 長方形の経路の周りにコの字型の櫓を付け、借家や店舗として商店街を造った18世紀には、あらゆる階層の人々が集い、カフェやブティック、賭博場が集結して一般市民の空間となった。18世紀、王政に不満を持つ民衆が立ち上がったのがここ、フランス革命へと発展。現代は現代芸術家の円柱が立ち並び散歩を楽しむ親子連れ姿が見られる。</p>	<p>屋外美術館 遊歩道 観光拠点</p>	<p>転用性○ 舞台性× 巡回性○</p>
	<p>〔エトワール凱旋門等の交差点〕 観光スポットでもあり、この凱旋門を中心に、シャンゼリゼ通りを始め、12本の通りが放射状に延びておりその形が地図上で光り輝く「星＝étoile」のように見えるので、この広場は「星の広場(エトワール広場) la place de l'étoile」と呼ばれていた。パリの交通システムとして、このように中心に何か公共空間としてのスポットがあつて、放射状に伸びて行く場所は沢山ある。円型周辺には緑や噴水のある公園、高級ブティック、駐車スペース、地所によって用途が異なる公共スポットが配置されている。</p>	<p>交通拠点 観光拠点 公園 駐車場 商業</p>	<p>転用性○ 舞台性× 巡回性○</p>
	<p>〔サンマルコ広場〕 広場には多くのテーブルが並んでいる。1683年に最初のカフェが開かれ、1世紀後に24に増えた。そこではあらゆる階層、年代の人達が、賭博や好みによってカフェが選択し、グループごとの溜まり場になり多くの芸術家、作家達の出会いと競争の場となった。まさにヴェネツィアの歴史、文化、芸術が凝縮された場。</p>	<p>観光拠点 交通拠点 祭典会場 オープンカフェ フェデラス</p>	<p>転用性○ 舞台性○ 巡回性○</p>
	<p>〔ロックフェラープラザ〕 NY中心にある半地下のプラザには、万国の国旗とプロメテウスの資金像が立ち、夏はカフェテラス、冬にはアイススケートリンクとして使用される。12月になると特大のクリスマスツリーが飾られる事で有名。周囲からスケートを見物する人もいて、市民が一体感を感じる事が出来る立体空間構成。市民のリビングのようである。</p>	<p>スケート場 カフェテラス 祭典会場</p>	<p>転用性○ 舞台性○ 巡回性○</p>
	<p>〔カンポ広場〕 自然の地形を生かしたカンポ広場は、13世紀初頭にはシエナの中で重要な市民の娯楽空間となっていた。国際自転車レースやクラシックカーの祭典の舞台になるなど、現代に即した新たな活用がされ続けている。年に2回、800年続くシエナ17地区対抗戦馬「パリオ祭」の時は周囲の住宅のバルコニーは観覧料が払われ公共空間となる。</p>	<p>観光拠点 (世界遺産) 祭典会場</p>	<p>転用性○ 舞台性○ 巡回性○</p>
	<p>〔パッサージュ/ギャラリー〕 ガラス屋根で覆われ、両側には商店が立ち並び比較的狭い、日本のアーケード街に似ている。フランス革命後に投機家達が敷地にショートカットを作った事がきっかけ。近道というの、公共空間の中で昔の利益となるもの。近年は有名パリのブランドも入って観光スポットともなっている。</p>	<p>遊歩道 商業 カフェテラス 観光拠点</p>	<p>転用性○ 舞台性× 巡回性○</p>

図4

第三章 公共空間についての基礎的研究

3-1. 多様な使用場面を持つ公共建築

街の中で、ちょっとした出っ張りに腰掛けて休憩していたり、柱にもたれて友人を待っていたり、ふとした瞬間に建築を一時的に使っている事に気付く。公共空間の中で、どのような建築空間を私達がふと使い交流を生まれるのだろうか。本章では実際の空間事例から、公共建築が多様な使用場面を持つ為の要素を考察する。

3-2. 公共空間に必要な要素

街路や広場は、住宅の隙間を埋めるものとしてだけではなく、市民の対話の場となるものであり、交流と地域繁栄の為に存在している。実際の代表的な公共建造物の沿革、配置、用途、市民に与えた効果から読み解き、公共空間に必要な要素を考察する。(図4)

公共空間が発達し、永く使われ続ける時、空間の機能に自然、娯楽、商業、交通、等を備えている事が挙げられる。1通りの使い方ではなく、日常/非日常(祭礼等)何通りにも見られる事から、全般的に【転用性】の高さが重要だと考えられる。とりわけ催し物の舞台となる広場の空間は、観客と演者によって

居場所が使い分けられる【舞台性】の高い空間を構成している。さらに、各配置より、空間は街路に面しているか、それ自身が街路であり、都市空間のある場所同士を接続し、人々が巡回できる空間となっていることより【巡回性】の高さが挙げられる。

第四章「都市の祝祭空間」事例調査

本章では、事例について現地調査を行う。各祭礼の巡回マップ、祭礼に関する書籍、そしてヒアリングを基に、祭礼の現状、流れ、経路や祝祭空間の現況を分析する。祭礼空間と都市形成の関係に着目して考察する。

4-1. 「都市祝祭空間」の利用実態調査

参照事例: 徳島市阿波踊り、西条祭り伊曾乃神社例

大祭、高円寺阿波踊り、豊浜ちょうさ祭り、川越祭り、麻布十番納涼祭り、とくしまマルシェ、東京駅イベント、高松祭り、赤城神社例大祭、西の市、芝浦アイランドまつり、赤羽台団地祭、ファスナファト 等

4-2「巡回型祭礼」について

ここで取り上げる祭礼は、町単位を祝祭空間とするような、広範囲に渡って人々が町を行き交う祭礼、「巡回性」の高いものである。1章でも述べたように、このような祭礼は、様々な空間の使い方や、意図しない様子が町中で多く見られる可能性が高いからである。巡回経路が事前に分かり、その動きと場所を追えた祭礼、徳島市阿波踊り、西条祭り伊曾乃神社例大祭、高円寺阿波踊り、豊浜ちょうさ祭り、川越祭り、麻布十番納涼祭り、の6つの祭礼に着目し、その際、①舞台を形成する都市空間、②祭礼時に市民が交流する休憩場所として開かれるプライベート空間、③見せ場、観光拠点、商店等を有する祝祭空間のネットワーク、④土地の沿革を表す祝祭空間の景観、の4点に分けて把握する。

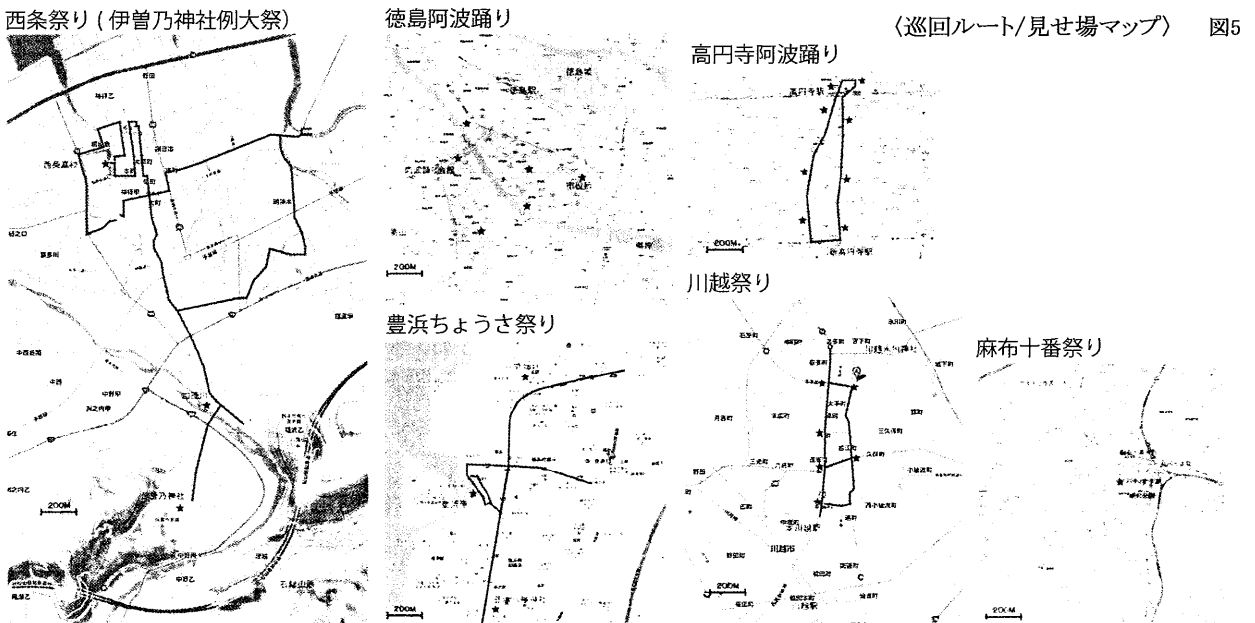
※「巡回ルートマップ」(図5)では赤線が、それぞれだんじり/ちょうさ/連のルートであり、赤★が見せ場/演舞場の場所、黄☆が公式の見せ場ではないが、観客とだんじり衆/踊り子が、舞台のような形態を作り、盛り場となっている場所である。

〔①舞台を形成する都市空間〕

主に、交差点、歩道橋のある交差点、橋と橋に接する街路、堀を囲む街路、川と川岸の道、囲まれた港、広場、複数車線道路の中心にある緑地帯においてその形態が見られた。街路が交差している場所は、交差部分の面積が大きくなり、中心部が舞台となる。また、歩道橋と水辺付近は高低差によって、見られる人と観客の場所が離れて角度が出来る事により、舞台が形成されやすい。とりわけ水辺は、自然の神聖かつ特別な雰囲気により祭礼のランドスケープに良い影響を与えていると考えられた。そして、緑地帯のある道路は、通行止めになると、全体が自然のある広場ようになり、ステージ等を組みやすくなる。

〔②祭礼時に市民が交流する休憩場所として開かれるプライベート空間〕

祭礼時には、華やかな舞台だけでなくその地域の人たち同士が集まり、休んだり宴会をしたりするスペースも重要である。主に、住宅の玄関先の庭、玄関と道路の間の段差、ガレージ、土間、店舗の駐車場、業者の車庫等で見られ、置いていた物を動かす等してスペースを作り、日常とは違う使われ方をしていた。敷地の境界部分、また、私的な場所以外で休憩場所として使われているものには、建物と道路の間のスペース、堀と道路の間のスペース、のように敷地境界のデッドスペース、あるいは、アーケードや河原広場のような場所だ。(図6)



〔③見せ場、観光拠点、商店等を有する、祝祭空間のネットワーク〕

徳島市では、川を挟んだエリアが祝祭空間となり、阿波踊り時には、(図7)の黄と紫エリアは車両の通行止めを行っている。席を指定された見せ場となっている演舞場以外にも、町を歩きながら突然踊り広場に出くわすようにエリアのあちこちに儲けられている。川沿いのボードウォークと呼ばれる道にはパラソルの露店と川を向いた商店が向かい合って並ぶように配置されている。また、祝祭空間となるエリアには情報を得られる観光センターや、アーケード商店街、さらに水上へも山へも駅から徒歩で行く事が出来るほど地形的にも恵まれ、阿波踊りを見ながら徳島という都市を体験できるようになっている。

〈徳島市阿波踊り 祝祭空間用途 色分類 MAP〉

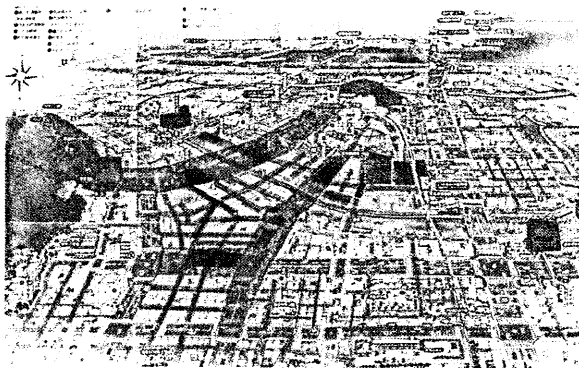


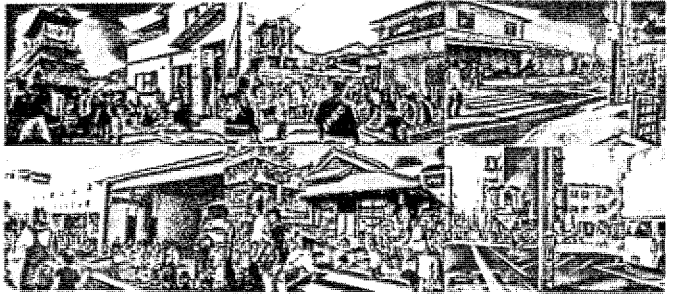
図7

※黄色：車両通行止めエリア、紫：街路(橋、歩道橋込み)、青：観光施設、オレンジ：演舞場、濃桃：小広場、緑：緑地

〔④土地の沿革を表す祝祭空間の景観〕

祭礼時、ある場所で祭礼風景を眺めていると、ふとその風景が、地域の成り立ちと構造を象徴的に表し、それを俯瞰的に見ているように感じる場所がある。例えば、西条祭りの例では、石鎚山を風景とした川入りの風景に、うちぬき水に支えられて来た西条市の沿革を感じる。地域の風景と、人々の祭礼時の活動、空間の使用方法の変容が重なり、「都市祝祭空間」というランドスケープを形成する。これは、市民にとって分かりやすく都市の特徴を把握でき、シビックプライドを形成する。(図8)

私的空間を開いて利用した例



屋外スペースを利用した例

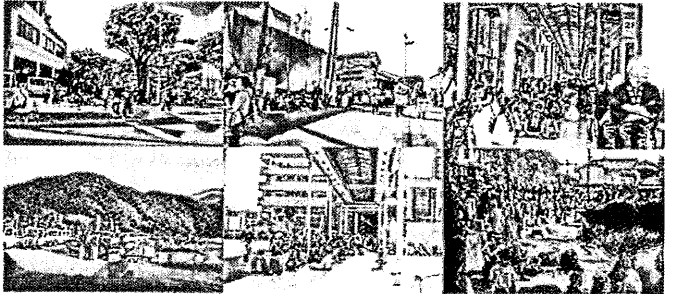


図6

非日常時における、私的空間 / 公共空間使用方法の変容

空間名	日常	非日常	
街路	アーケード	通行、商品陳列	露店 / 通行 / 飲食 / 休憩場所
	道路	通行 (車 / 自転車 / 歩行など)	通行 / 踊る / 座る / 景色を見る
	橋	通行 (車 / 自転車 / 歩行など)	通行 / 踊る / 見る / 景色を見る
	歩道橋	通行 (車 / 自転車 / 歩行など)	通行 / 踊る / 見る / 景色を見る
	緑地	道路を分ける	舞台 / 仮設看板 / 腰掛ける / 佇む
	ポール	道路を分ける / 車の侵入を止める	腰掛ける
水辺空間	水辺遊歩道	腰掛ける / 遊ぶ / 散歩 / 踊りの練習	通行 / 腰掛ける / 露店 / 景色を見る
	水辺の階段	腰掛ける / 水遊びする	座る / 飲食 / 景色・踊りを見る
	船着き場	船乗り場 / 観光案内	踊りの舞台 / 船乗り場 / 観光案内
	船上	乗る / 川沿いの景色を見る	景色を見 / 踊りを見る / 移動
公園	楽器を演奏する / 踊りの練習 / 遊ぶ	露店 / 腰掛ける / 食べる	
小広場	楽器を演奏する / 通行	踊る / 座る / 佇む / 景色を見る	
駅前広場	通行 / 待つ	踊る / 座る / 見る / 受付 / 待つ	
駐車場 / ガレージ	駐車 / 物置	練習場所 / 踊り子の休憩場所	
空き店舗	貸事務所など	一日店舗 / 踊り子の休憩場所	
商店街	踊る / 通行 / 座る / 飲食	踊る / 通行 / 座る / 飲食	
公民館	踊りの練習 / 休憩場所	踊りの舞台 / 休憩場所 / 観光案内	
校庭	遊ぶ	駐車場	

+

LED空間演出「眉山」という背景 新町川

「祝祭空間」というランドスケープ



図8

第五章 徳島県徳島市新町川周辺を例として

この章では、前章「巡回型祭礼」の事例の中でも、第四章で抽出した要素4点に当てはまる、阿波踊りの開催地、徳島県徳島市に着目したい。

徳島市では、特に新町川水際沿いの街路空間に顕著に見られるように、新町川を含む中心市街地一帯に都市祭礼空間が広がる。徳島市の祭礼空間となるエリアの現状や、都市政策に携わる人へのインタビューから、市民にとってより良い都市空間になる要素をさらに論考する。

5-1. 水都徳島市について

徳島市は四国一の大河である吉野川の沖積平野に発達した都市。市内には、大小138の河川が流れ、福島など島のつく地名が多く残されている。江戸時代に徳島藩の城下町として栄え、幕末には川の水源を利用した藍産業の発展により国内で人口が上位10位に入る城下町となった。徳島県の政治・経済・文化の中心都市であり、四国地方でも最大規模の都市の一つであり古来より近畿地方との繋がりが強く、現在でも神戸淡路鳴門自動車道や関西地方のメディアを通じて経済交流が盛んである。

5-2. 徳島県行政による都市政策／観光政策の現状

「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」(図9)

この構想は、市内を流れる新町川と助任川に囲まれた市の中心地域をその形から『ひょうたん島』と名付け、「水都・徳島の顔」として蘇らそうというものである。周囲6キロの『ひょうたん島』を「にぎわいのあるリバーフロント」「歴史との出会いのある水辺ゾーン」「藍と浪漫の散歩道」など、歴史、伝統、文化をモチーフに、8つの整備ゾーンに分け、それぞれのゾーンごとの特性に応じた整備が進められた。具体的な整備内容は、親水型の公園の整備や、川の浄化対策ポンプの設置、阿波おどりのブロンズ像を配置するなど橋の個性化に配慮した橋の修景などである。また、徳島市では、1992年7月に小型のPR船を導入以来、冬季を除く毎月第二・四日曜に定期的に運航してい

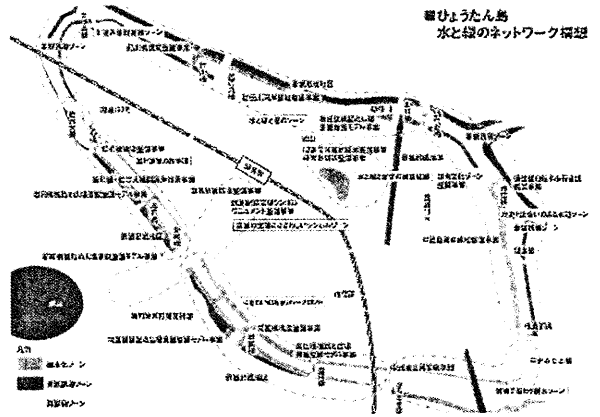


図9

る。

5-3. 徳島市の市民参加型都市政策の現状

徳島市では、新町川や徳島湾を中心とする景観に熱意と愛着を持つ市民によって、大きな祭礼時以外においても新しい企画がなされ、活性化を目指した動きが見られる。そのような活動に精力的に取り組んでいる方々に実際の活動の様子を伺う。

調査概要

[ヒアリング調査]

今回、行政とNPO 団体(市民と行政の間の立場から徳島市の都市政策や空間利用の企画に携わっている。)両方面からインタビューを行い、徳島市の空間利用の現状と今後の課題について考察する。

- 調査実施期間： 2012年12月
- 調査方法： インタビュー(各課、事務所にて各2時間～3時間)
- 調査対象者： 行政(観光課、企画政策課、経済政策課、都市政策課)、NPO 団体(アクア・チッタ、コモンズ、とくしまマルシェ)
※徳島市新町川付近ひょうたん島エリアから、万代ふ頭におけるエリアで活動する団体。阿波踊り、はな・はるフェスタ、LED アートフェスティバル、ボードウォークとくしまマルシェ、万代ふ頭の貸し倉庫における各種イベント等の企画を行っている。
- 調査項目：

行政

- ◆ 主な事業内容
- ◆ 街中のルート、マップ作り、都市計画手法について

- ◆ 水際付近の水と緑のネットワーク構想について(計画前後の変化)
- ◆ 祭礼各種の目的と計画方法
- ◆ 祭礼時の祝祭空間への気づき
- ◆ 市民参加型都市政策について
- ◆ 祭礼を意識した街づくりへの考え 等

NPO 団体

- ◆ 活動のきっかけと目的
- ◆ 活動して変化した事
- ◆ 行政や他の NPO 団体との共同企画について
- ◆ 空間利用に関する新たなアイデア
- ◆ 祭礼を意識した街づくりへの考え
- ◆ 子供に対する、都市の将来を意識するような教育の必要性についての考え 等

□ 考察

行政から得た回答の中では、「祭礼時に危険な場所や使いづらい場所が出てきて、応急処置的に直した場所があった」「祭礼を意識した都市空間づくりは特にしていないが、親水性を高めるための水辺の空間作りは、常日頃周辺市民と共同で行っている」というものがあつた。その中心的な取組として、新町川水際公園を始めとする「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」を掲げている。その効果としては、祭礼時には、一時的に沢山の人が訪れるが、日常生活においては、川自体が場所を分ける障害となり、人が利用せず商店街も衰退という状況が現状となっている。

しかし徳島市では、地域への愛着心を持つ市民達による、使われなくなったビルや倉庫、街空間の使い方に関する新しい案を持つ市民団体が存在するので、今後都市政策を進める上で行政との連携が必要と考えられる。水源を利用した新しいイベントに向けて、徳島市の NPO 団体は、横の連携を大切にしており、各イベント時、互いに必要な場面で協力し合い、新町川周辺を積極的に繋げていく工夫を共同で考えている。

インタビューを終え、シビックプライドを育てるまち

づくりには、①寂れてしまった場所の新たな魅力や使い方を提案し、環境をより良くしようとする NPO 団体の必要性、②祭礼・イベント時に市民同士の横の連携を強化して助け合う事、③市民達が個々で自主的に街を体感して魅力を発信し始める意識が必要であると考えられた。また、行政に所属する人の中に、柔軟な発想と民間と協力するモチベーションを持つ方が存在することが大きな鍵になっていると考えられた。

5-4. 徳島市の新町川周辺における空間利用の現状

調査概要

[空間利用状況調査]

新町川付近の空間利用状況を日常時/非日常時に視察し、同じ場所における祭礼時の空間利用と日常時との変化を比較する。(図 10)

□ 調査実施期間: 2012 年 8 月～2013 年 1 月

□ 調査方法: 目視調査、撮影調査

□ 調査項目: 道路や広場、ボードウォーク、商店街がどのように利用されているか。

考察: 日常時/非日常時の使用方法変化から、第四章の図8の表を作成した。祭礼時とは違って、日常時は閑静な散歩道。阿波踊り期が近くなると水際公園から練習の音も聞こえる。市場、とくしまマルシェは毎月行われ、多くの人が訪れているが、雨の多い徳島市では天候に左右される。日常と非日常時で転用性の高い空間は、阿波踊りの舞台となる新町川付近に固まって存在していて、河の北側へ行ってみると整備されていない空間が続く。徳島市で生産されている LED を使用した橋や親水空間エリアでは近年 LED アートフェスティバルが行われている。ひょうたんじま一周にアート作品を展示するので、今後は、川一周でこのような転用性が高まる事を期待したい。徳島市の調査を行った結果、第四章で抽出した4点に加え、さらに以下の6点が、市民が愛着を持った生活を送り得る祝祭空間の要素として挙げられる。

⑤ 中心市街地が祭礼の舞台に含まれる。

⑥ 親水化のように、自然を取り入れた都市計画。

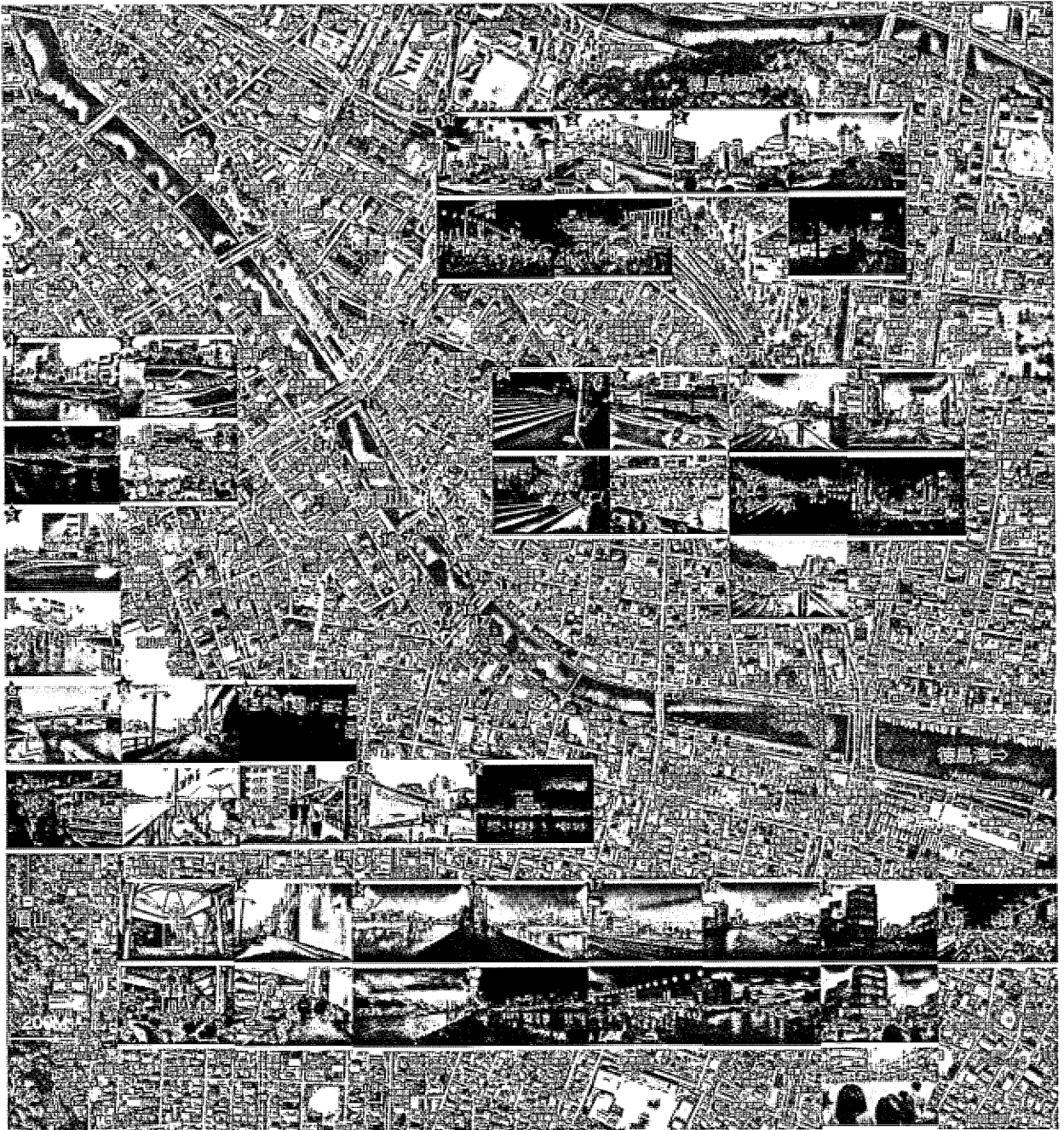


図10

- ⑦ 季節や天候によって異なる景観。
- ⑧ 祭礼を意識した空間やスポット。
- ⑨ 地元で作られる工業製品を利用した、将来性やアート性のある空間デザイン。
- ⑩ 転用性を持つ場を発見するNPO 法人の存在。

第六章 都市空間利用における可能性と今後の課題

第四章と第五章において抽出された、①～⑩10点の要素より、祭礼があることによって場所の転用性が

発見され、転用性のある場所があることによって、祭礼がより生活空間に密着したものになる事が分かった。祝祭空間に変化する事を意識した都市計画は、市民が質の高い充実した都市生活を送り続ける為に効果的であると考えられる。ハード/ソフト両面において住環境が改善される。

6-1. 祭礼空間から都市計画へ(ハード)

徳島市は祭礼時に「巡回型祭礼空間」を形成している。祭礼空間を意識した計画は以下のような

利点をもたらす。

1. 私的空間を開く等、市民が交流する為のオープンスペースの重要性を示す。
2. 街路の公園化や、親水空間の改善など景観整備時の一つの指針となる。
3. 商店街の店舗の向きや配置、街路灯の配置等の基準となる。
4. 観光/防災ルートの充実。

6-2. 横の連携と縦の連携(ソフト)

市民参加型の町を目指すためには、まだ町に問題意識を持たない市民を巻き込んでいく必要がある。行政とNPO法人が協力し、市民に気づきを与えるプログラムを企画する為、横の連携を強化する必要がある。2013年に開かれるLEDアートフェスタに向けての取組みにも見られるように、違う地域で活動するNPO法人同士も、同時多発的に動く必要性を感じているようだ。

さらに、徳島市の課題として、若い世代の参加が少ないことが挙げられている。持続的な世代を育てる縦の連携が必要である。町の魅力の伝え方を知らない市民が増えている。幼い頃から自らの町を意識して育つ場合と意識しない場合では大きく異なる。NPO法人アクア・チッタが市と共同企画している「水辺の夢コンテスト」や、コモنزの「LED 寺子屋」のような、子どもを対象とする景観を意識した取組みに参加する事で、自分の町の特徴を良く見て育つ機会ができる。町の将来に問題意識を持ち始め、町の魅力の伝え方を開拓ようになるのではないか。

【結論】

- 1: 祭礼があることによって場所の転用性が発見され、転用性のある場所があることによって、祭礼がより生活空間に密着したものになる。
- 2: 祝祭空間という視点が、市民参加型まちづくりにとって効果を与える。
- 3: 転用性を持つ場所の発見に対して、NPO法人等の中間集団の存在が有効である。

6-3. おわりに ～「連」祭礼を通して人と場所が

繋がり合う町～

祭礼とは一般的に、人々の日常の疲れを癒し、地域の伝統継承とコミュニティの繋がりを深める手段として捉えられている。しかし、祭礼そのものの成り立ちには、その地域の都市構造が大きく関わっていることを忘れてはならない。徳島市におけるヒアリング調査より、市の地形、広場や街路の配置は、祭礼の企画段階から祭礼の内容、祝祭空間の構成を左右し、大きく関連している。市民のモチベーションはあるものの、配置や容積等、都市構造、法規の問題で実現しにくい企画もある。非日常時だけでなく日常的に町の拠点が繋がるようになり、人や物の流れが起こり、町が栄え続けるためには都市空間の質を高める必要がある。都市政策/計画時に考慮されるべき一つの有効な手段として、都市空間の祭礼による「転用性」が見直されるべきではないだろうか。今、多くの祭礼が誕生し、ライフスタイルも変化し、ハレとケの区別があいまいになりつつある時代である。町の良さに気づく祭礼体験を市民同士が共有できる「舞台性」の高い都市空間が増えることにより、祭礼と都市空間は相互に関係し合い、さらなる進化を遂げて行くだろう。

【主要参考文献資料】

- ◇ 「とくしまの自慢本あわいろ制作委員会」、とくしまの自慢本あわいろ、徳島市、平成23年12月
- ◇ 木全吉彦、季刊誌CEL100号「「まつり」が育む地域の力」、大阪ガス、平成24年3月36日
- ◇ シビックプライド研究会、シビック・プライド都市のコミュニケーションをデザインする、
- ◇ 東京大学 cSUR-SSD 研究会、世界のSSD100都市持続再生のツボ、平成20年1月10日
- ◇ 倉橋宏典:北陸の曳山祭における祭と都市空間の関係性に関する研究 -曳山の動きと都市空間の対応関係に着目して-
- ◇ 徳島 LED アートフェスティバル

<http://tok-led-artfest.net/>